

産廃の完全リサイクル目標

オキセイ
産 業

県職員らが工場見学

「埋め立て処分ゼロの完全リサイクルを目指している」。13日に(株)オキセイ産業(松原良雄社長)の西原営業所で行われた、県内各保健所職員を対象とした施設見学会で、同社の瀬長専務取締役は最終的な目標をこう述べた。見学会は、県職員の人事異動に伴う研修プログラムの一環として行われたもので、同社による受け入れは今年で2回目。瀬長専務が処理施設内を案内し、同社における廃棄物の処理過程や社の取り組みを紹介した。

同社では、搬入した廃棄物を分別機械や手作業で選別し、原料として再利用できる廃棄物と燃料として再活用できる廃棄物とに分けて処理している。持ち込まれた建築木材の約90%は、木材チップとして県内セメント工場で燃料代替物に活用。ビニール類やPPバンド等は品目別に分類して圧縮、発泡スチロールは加熱減容したインゴット(塊)に加工し、塩ビ管などは粉碎処理して、原料材として中国に輸出している。

一方、管理型処分場での処理が義務付けられている廃石膏ボードは、産学官で再資源化に向けて連携した取り組みを進めている。同社では、石膏ボードを石膏粉と紙に分別、石膏粉は軟弱地盤の土壌改良材として利用されている。廃石膏ボード処理は今後増加が予想されることから、用途拡大に向けて研究を推進する考え。

見学会で説明を受けた県職員は「産業廃棄物を非常に適切に処理している」という印象を受けた。これからも廃棄物適正処理への取り組みに協力してほしい」と評価した。瀬長専務は「県職員が研修で訪れることは光栄なこと。県内の処理場がひっ迫するなか、循環型社会への取り組みを推進していきたい」と意欲を示した。同社に搬入される廃棄物は建設現場や一般の工場からの製品も含まれるが、現状で約70%の再資源化に成功している。今後は90%以上の再資源化を目標にリサイ

クル率の向上に努める方針だ。仕事は趣味のようすで、やればやるほど楽しみがある、と話す松原社長は「県内の処分場は空きが限られており、埋立処分する廃棄物を減らすことは重要。会社を設立して来年で20周年になるが、これまで色々な状況乗り越えてきた。今後は社の取り組みを若い世代に引き継ぐため、人材育成と土台作りにも励んでいく」と話した。

るという印象を受けた。これからも廃棄物適正処理への取り組みに協力してほしい」と評価した。瀬長専務は「県職員が研修で訪れることは光栄なこと。県内の処理場がひっ迫するなか、循環型社会への取り組みを推進していきたい」と意欲を示した。同社に搬入される廃棄物は建設現場や一般の工場からの製品も含まれるが、現状で約70%の再資源化に成功している。今後は90%以上の再資源化を目標にリサイ



廃石膏ボード分別機械の前で説明する瀬長専務(右)